

コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

No.29 2016年 1月号
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
〒712-8024 倉敷市水島北春日町4番3号
TEL 086-444-3212
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-446-6541

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

迎春号

コープリハビリテーション病院に期待すること

患者さんに寄り添う病院

倉敷医療生活協同組合 大高支部 理事 黒岡顕夫

私たちは、みんな同じように年を取っていきます。

この世に生まれて50年後には50歳、60年後には60歳、70年後には70歳と誰でも元気に年を取って、「ぴんぴんころり」と死ぬことを願っています。

肉体的・精神的・経済的などいろいろな事情で病気になることがあります。病気になる身体が自由に動けなくなると困ったときリハビリを安心して任せられる病院があることは心強いです。

高齢になって咀嚼力が弱くなっても『生協新聞』2015年9月号にその人に合ったやわらか食の食事など患者さんに寄り添った治療をしてもらえる病院は、もっと充実発展することを願っています。

大高支部からは、少し遠くなっている「かかりにくくなるなあ」という声も聞かれますが、水島臨海鉄道を使えば、水島駅から歩いてすぐなので利用しやすいと思います。

コープリハビリテーション病院で学んだ

喘息との向き合い方①

神亀支部 支部運営委員 大野範子



携帯酸素を付けての公園散歩 (大野さん)

でしたが、担当して頂ける方は、喘息大学やのぞみの会(喘息患者会)の学習会の時によく来て頂いて、顔見知りだったので一変に不安が飛んでいき、自分が思っていることを隠さずに話しました。

退職を機に喘息というやっかいな病気を少しでも克服し、鼻から吸っている酸素をどうにかして取りたいという気持ちがありました。そんな時にコープリハビリテーション病院のリハビリ科の事を聞いたので、主治医の先生へ相談し、紹介状を持って受診しました。最初は不安で胸がドキドキ



老健あかねで写経ボランティアの指導をしている大野さん(左)

その先生からは、「目の悪い人はメガネをかける」「耳の悪い人は補聴器を付ける」「それと同じで、大野さんの場合は肺の機能低下で酸素を取り入れにくいのでそれを補うのに酸素吸入が必要です。低酸素は脳にも悪影響がある」と言われました。内心は酸素吸入がな

イキイキと暮らすための酸素吸入

くせるようにリハビリを頑張りました。と言ってもらえると思っていたので、後ろ頭をガツンとトドメを刺されショックでした。酸素を上手く使い、日常生活やボランティア、生協等の活動がイキイキと出来る様に週1回1時間のリハビリが始まりました。



大高支部のみなさま (筆者最前列)

新年のごあいさつ

コープリハビリテーション病院 管理部一同
老健あかね

あけましておめでとうございます。
来春には移転を予定しています。
震災に強い建物、居心地のよい建物に生まれ変わります。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



建設の状況 歩道の工事が始まりました



シリーズ「専門職の誇り」

利用者様の思いに沿って在宅生活を支える通所リハビリを目指して



松本裕美子副主任

老健あかね通所リハビリは定員20

名から26名に増え、職員一同は利用者様に満足していただける通所リハビリであるよう日々心がけています。利用者様の心身機能、生活環境、ニーズは本当に様々です。在宅生活を支援させていただくためには利用者様の個性を尊重し、可能な限り個々のニーズに応じていくことが求められます。介護していた奥様を亡くしたA様は生きる気力をなくし食事もうろくにとれず立ち上がることがままならない状態でしたが、ケアマネージャーの勧めでなんと老健あかね通所リハビリをご利用されることになりました。休まずリハビリに取り組み、表情も明るくなりフリー歩行も可能となりました。「あかねさんに来て元気になることができた。本当に良かった。」と笑顔で話してくださっていた矢先に、A様は重

大な疾患がみつかり化学療法・放射線療法による入院治療を余儀なくされたのです。
数ヶ月後、A様・ご家族から一時退院中の利用希望があったため、ケアマネージャーと連携し急遽調整を行いました。以前と比べ体力が衰え不安な心境であるにも関わらず、A様は「また家に帰ることができたら必ず来るよ。」と笑顔で話し再び入院されました。通所リハビリで過ごす時間はA様の生活のほんの一部分でしかありませんが、かけがえのない時間でもあるのです。A様の思いに沿って支援させて頂くことで私たちも力を頂きました。在宅生活を支えるということは容易なことではありませんが、利用者様を全人的に捉えてご本人・ご家族様の思いを知ろうとする姿勢が大切です。そして私達に何が出来るのか、日々全力を尽くしサービスを提供することが私達の役目だと実感しています。
副主任 松本裕美子

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。